

字ナキニ苦ノリ（尾崎）一分ヲ包含スルト云フ詞ナシ（栗塚）
假令ハ風呂敷ノ中ニ家具ノ全部ヲ包ミシカ又ハ其一分ヲ包ミシ
カト云フカ如シ（委員長）債權ノ擔保ニ必要ナルモノニ其抵當
ヲ減少スルコトヲ得ト云ヘルハ文章上不完ナルニアラスヤ（村
田）債權ノ擔保ニ必要ナル部分ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得ト
シテハ如何結局原案ノ儘ニ可決ス

第千二百十四條 抵當ノ設定證書ニハ右ノ外義務ノ原因、體様及ヒ
其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコトヲ要ス

義務ノ目的カ金錢タラサルトキハ之ヲ評價スヘシ然レトモ其評價
ハ第千二百二十六條ニ記載スル如ク記入ノ場合ニ於テモ尙ホ之ヲ
爲スコトヲ得行スルコトヲ得

（渡）記入ノ場合ニ於テモト云ヘルハ如何（栗塚）記入ノ當時
ト云フ義ナリ（清岡）記入ノ際ニ於テモトシテハ如何（箕作）

起案者ノ意見ハ其記入ニ於テモト云フニアリ（元尾崎）記入ニ
於テモトスヘシ可決ス

第千二百十五條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益
權ヲ有シ且有價又ハ無價ニテ其物ヲ處分スルノ能力ヲ有スル者ニ
非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第
千二百十七條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ權利ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ右ノ權利ノ時期
外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時
ノ滿了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル價金ニ移リタルト
キハ債權者此價金ニ付キ其權利ヲ行フ

（南部）出來事ト云ヘル文字ハ舊案ニ掲ケタル如ク事變トシタ
シ（元尾崎）出來事ト云フヲ可トス（松岡）奥羽ノ俗ニハ吳レ
ルト云ヘル事實ヲ出來ルト云ヒ出來ルト云フ場合ニハ出ルト云

フ語アリ（北畠）奥羽ノミナラス甲州邊ニ於テモ出來ルト云フ
詞ハ五畿内ノ詞ト同シカラス古言ニモ月ハ出來タカ團子ハ出ナ
イト云フコトアレハナリ結局原案ノ文字ニ可決ス

第一千二百十六條 未成年者、禁治産者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定
メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲
スコトヲ得ス

無異議

第一千二百十七條 約束上ノ抵當ハ第一千百三條及ヒ第一千百二十二條ニ
於テ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク第三者ノ債務ヲ擔
保スル爲メニ之ヲ與フルコトヲ得

右ノ抵當ハ常ニ債務者ニ對シテハ恩惠ナリトス
又抵當ハ債權カ無價ナルトキ又ハ有價ナルモ諾約ナクシテ主タル
合意以後ニ之ヲ設定シタルトキハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

民再調三ノ一〇〇

（元尾崎）抵當ハ恩惠ナリト云ヘルハ必要ノ言ナリヤ（松岡）
他ノ抵當ト結果チ同フセサルナリ（箕作）第一千百二條ノ第三者
ト本條ノ第三者トハ其人チ異ニスルニアラスヤ（栗塚）本條ハ
債務者チ第三者トシ第一千百二條ハ抵當ヲ供シタル人チ指シタル
ノ差ヒアリ（松岡）本條ハ第三者ノ債務云々トアルチ債務者ノ
債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ與フルコトヲ得トシテハ如
何可決ス

第三款 遺言上ノ抵當

第一千二百十八條 抵當ハ遺贈ノ全部若クハ幾分ノ擔保又ハ第三者ノ
債務ノ擔保ノ爲メニ非サレハ遺言チ以テ之ヲ與フルコトヲ得ス
有效ニ遺言上ノ抵當ヲ設定スルニハ設定者ト債務者又ハ債權者ト
ノ間遺言ニ因テ互ニ授受スルノ能力アルコトヲ要ス

（村田）設定者ト債務者又ハ債權者トノ間トアル間ノ下「ニ」

ノ字ヲ入レタシ（笑作）「ニ」ヲ入ル、チ可トス（松岡）「ハ」ノ字ヲ入ルヘシ（栗塚）「ニ」ヲ入ル、チ可トス可決ス（村田）幾分ト云フ文字ハ一分トシタシ何レニモ全部若クハ幾分トシタル文例ナケレハナリ（南部）文例ナキチ保セス報告委員ニテ調査スヘシ（松岡）遺言上ノ抵當ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得スト云フトキハ自己ノ債務ニ付テハ之ヲ抵當トスルヲ得サルヘシ右ハ他ノ債權者ヲ害セサランカ爲メニ自己ノ債務ニ抵當トスルヲ得スト云フ義ナルヘキモ他人ノ債務ノ爲メニハ之ヲ抵當トスルヲ得ト云フハ不理ニアラスヤ（笑作）抵當ハ贈遺ノ全部若クハ一分ノ擔保ノ爲メニアラサレハ遺言ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得ストシテハ如何（委員長）然ルヘシ尙ホ起案者ニモ問合スヘシ（松岡）第二項ハ必要ヲ見ス何トナレハ遺言ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得ストアル以上ハ其能

力アルチ要スルコト勿論ナレハナリ（笑作）前項ノ第三者ノ債務ト云ヘル文字ヲ刪除スルトキハ設定者ト債務者又ハ債權者トノ間ニト云フ關係ヲ示スニ及ハサルヘシ（元尾崎）第二項ハ全刪スヘシ可決ス

第三節 抵當ノ公示

第一款 記入ノ條件、方式及ヒ期間

第一千二百十九條 凡ソ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ其不動産所在地ノ登記所ニ於テ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨ル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ於テ記入チ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其記入及ヒ日附ノ記載ノミチ爲ス

無異議

第一千二百二十條 抵當ハ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ有效ニ之ヲ記入スルコトヲ得ス

第一 抵當設定ノ後ニ於テ債務者ノ無資力カ適正ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若クハ過半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキ但破産ノ場合ニ於ケル記入ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

第二 債務者カ死亡シテ法律ニ因リ相続ヲ受ク可キ總テノ相続人カ單純ニ其相続ヲ受諾セサルトキ

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シ債權者ノ記入スル權利ノ制限ハ第五節ニ於テ之ヲ規定ス

(松岡) 有效ニ之ヲ記入スルコトヲ得スト云ヘルハ之ヲ記入スルモ無効ナリト云ヘル義ナリヤ(笑作) 然リ(元尾崎) 單純ニ其相続ヲ受諾セサルトキト云フハ如何(村田) 相続ヲ諾セサル

チ云フヘシ(渡) 差押ニ因リ顯然ト爲リトアル顯然ノ文字ハ如何(村田) 無資力ノ顯然タルチ云フニアリ

第一千二百二十一條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ記入ハ法律上又ハ裁判上ノ代人之ヲ爲ス

抵當ノ記入ハ總理代人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附着シタル行爲ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル部理代人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス又記入ハ債權者ノ委任ナクシテ事務管理人之ヲ爲スコトヲ得

(粟塚) 兄弟親屬ノ間ハ事務管理ト看做スモノナリ(元尾崎) 財産ノ管理權ヲ有セサルトキト云フハ如何(笑作) 無能力者ナルトキハト云フニアリ

第一千二百二十二條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニテ條件附ナルト否トヲ問ハス債務者ト爲リタルトキヨリ夫又ハ裁判所ノ許可ヲ要セス婦ノ請求ニ因リ之ヲ記入スルコトヲ得又

其記入ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得但第千二百四十一條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當減少ノ權利ヲ妨ケス

婦カ記入ヲ爲サ、ルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ記入ヲ爲スコトヲ要ス

婦又ハ夫カ記入ヲ爲サ、ルトキハ縱令委任ナキモ婦ノ親屬又ハ姻屬ニテ之ヲ爲スコトヲ得但婦ノ故障又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

(清岡)婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得ト云フハ酷劇ナリトス(南部)抵當減少ノ權利ヲ妨ケストアルニ依リ不可ナシ

第千二百二十三條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ記入スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從ヒ後見人之ヲ記入スルコトヲ要ス

後見人記入ヲ爲サ、ルトキハ後見監督人又ハ親屬會議員ハ其記入ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲サ、ルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス

未成年者モ亦後見ヲ脱シタル後ハ其記入ヲ求ムルコトヲ得

無異議

第千二百二十四條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス

處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ特別ノ代理人ニテモ記入ヲ求ムルコトヲ得

(元尾崎)處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ後見人ヲ置クカ(村田)後見人ヲ置クヘシ(元尾崎)如此場合ニ於テハ財産管理人ヲ設クヘキニアラスヤ(村田)後見人ヲ置クヘシ

第千二百二十五條 抵當ノ記入ヲ求ムル者ハ下ニ記スル如ク己レノ

利益ノ爲メ又ハ己レノ代表スル債權者ノ利益ノ爲メ抵當ノ成立ヲ登記官吏ニ證明スルコトヲ要ス
婦未成年者又ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ關スルトキハ抵當ノ原因タル婚姻又ハ後見ノ證據ニ依リ其證明ヲ爲スコトヲ要ス
合意上ノ抵當ニ關スルトキハ抵當ヲ設定シタル公正證書ノ謄本ニ依リ其證明ヲ爲スコトヲ要ス
遺言上ノ抵當ニ關スルトキハ遺言書ノ正本又ハ其公正ナル寫書ニ依リ其證明ヲ爲スコトヲ要ス
總テノ場合ニ於テ登記官吏カ抵當ノ成立ノ證據ヲ争フトキ又ハ債務者ト帳簿ニ記載アル不動産所有者ト同人ナルコトノ十分ナル證明ナキトキハ登記官吏ハ自己ノ責任ニテ記入ヲ拒絕スルコトヲ得但第千三百四條ニ記載スル如ク裁決ヲ受クル爲メ同條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

(栗塚)本條第三項公正證書ノ謄本ニ依リトアルハ證書ニ依リトスヘシ可決ス(笑作)公正ナル寫書トアルハ公正ナル謄本トスヘシ公證人規則中ニハ寫シノ文字ナケレハナリ可決ス(元尾崎)登記官吏カ抵當ノ成立ノ證據ヲ争フトキト云フハ如何(栗塚)登記官吏其證據ニ付キ疑團即チ異議アル場合ヲ云フニアリ(横村)證據ニ異議アルトキトシテハ如何(南部)異議ト云フモ適切ヲ得ス(尾崎)不十分ナルトキトシテハ如何(栗塚)證據書類ノ完備セサルヲ云フ(委員長)證據ヲ不十分ナリトスルトキトシテハ如何結局抵當成立ノ證據ヲ不十分トスルトキトスルニ可決ス(笑作)裁決ヲ受クル爲メト云ヘル文字ハ妥當ナリヤ(委員長)裁決ト云ヘハ意義廣汎ナレハ裁判トシテハ如何可決ス

第千二百二十六條 記入ノ要求者ハ右ノ外左ノ諸件ヲ精確ニ指示ス

ル明細書ノ正本二通ヲ差出スモノトス

第一 債權者ノ氏名、職業及ヒ住所若クハ居所

第二 債務者ノ氏名及ヒ成ル可ク職業、住所若クハ居所

第三 抵當ノ原因及ヒ法律上ノ抵當外ノ抵當ニ關スルトキハ設

定證書ノ性質及ヒ日附

第四 債權ノ性質、其證書ノ日附、之ニ記載シタル金額又ハ其

價額ノ不確定ナルトキハ現ニ評價シタル金額及ヒ債務ノ要求

期限

第五 抵當ト爲シタル不動産ノ性質及ヒ其所在地

從來ノ記入ノ縁邊ニ附記スヘキ讓渡又ハ代位ノ場合ニ於テハ明細書ニ新債權者及ヒ其證書ノ指示ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

(南部)本條末項其證書ト云ヘル文字ハ最初原證書トアルニアラスヤ(横村)起案者ニ質問ノ答トアリ如何(栗塚)其證書ト

云ヘルハ原證書ナルヤ否ノ點ニアリ(松岡)其證書ト云ヘルハ原證書トシタシ(栗塚)讓渡シタル證書ナルヘシ(笑作)新債權誰某及ヒ如何ナル名義ニテ讓渡シタルト云フ意義ナリ(栗塚)證書ト云ヘルハ誤記ナレハ其名義トスヘシ可決ス

第千二百二十七條 婦、未成年者又ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ因リ擔保セラレタル債權カ不當ノ利得又ハ不正ノ損害等ノ事實ヨリ生セシトキハ要求者ノ申立タル事實ノ要旨及ヒ其主張シタル債權ノ評價ヲ明細書ニ指示スヘシ

(南部)本條末文「ヘシ」トアルハ「可シ」ノ誤ナリ(元尾崎)本條ハ如何ナル意義カ(笑作)夫カ婦ニ對シ不正ノ損害ヲ掛ケタルニ付キ婦ハ夫ニ對シ債權ノ生シタル等ニアリ

第千二百二十八條 債權者カ記入ヲ爲ス登記所ノ管轄地内ニ住所ヲ有セサルトキハ其抵當ニ關シテ自己ノ受ク可キ通知ノ爲メ假住所

ヲ選定シ之ヲ記入セシムルコトヲ要ス

其假住所ハ右ノ條件ニ從ヒ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

(栗塚) 記入セシムルトアルヲ記入スルトスヘシ可決ス(横村)

本條ハ最初治安裁判所ニ問合セノ答ナリ(栗塚) 假住所選定ニ

付キ治安裁判所ニ問合セノ答ナリシモ假住所選定ハ當然ノ義ナ

レハ別ニ問合セニ及ハサルヘシ(元尾崎) 本條ハ刪除スヘシ(

南部) 假住所選定ト云フハ必要ナリ(元尾崎) 假令ハ麹町區ノ

住民カ京橋區登記所ノ登記ヲ受ケタルトキハ京橋區内ニ假住所

ヲ選定ニ置カサルヘカラサルト云フハ不便ナリ(栗塚) 刪除ノ

理由ハ不便ナリト云フニアリヤ(元尾崎) 然リ結局刪除ニ決ス

第一千二百二十九條 登記官吏ハ上ニ指定シタル書類ヲ受取りタル時

要求者ノ面前ニテ受取簿ヨリ切離シタル受取證ヲ之ニ付與ス但受

取證ニハ第一千二百五十三條ノ適用ヲ保スル爲メ受取ノ日附ト共ニ

其日ノ受取番號ヲ記載ス可シ

(松岡) 本條登記上ノ手續ニ屬スレハ本法發布ノ上ハ登記法ノ

細則ハ自然之ヲ變更セサルヲ得サレハ此種ノ手續ニ屬スルモノ

ハ其細則ニ讓リ置クヘシ(村田) 本條ハ單ニ手續ニアラス權利

上ニ關係スルモノナレハ刪除スルヲ得ス(松岡) 權利ハ記入ニ

依テ定マルヘシ(村田) 記入上番號ノ順次ニ依ルヘシ(栗塚)

報告委員中ニモ刪除説ナキニシモアラスト雖モ此ニ存在セシメ

タレハトテ別ニ害ナシトス(松岡) 番號ノ如キハ受取アルニ依

リ定マルト云フニアラス(南部) 受取ニ依リ番號上ノ權利ヲ生

スヘシ(尾崎) 本條中數個ノ文字ニ付キ刪除ヘシトスルモ全刪

ハ不可ナリ結局登記官吏ハ上ニ指定シタル書類ヲ受取りタル時

要求者ニ受取證ヲ附與ストスルニ決ス

第一千二百三十條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ

以テ或ハ自己ト原債權者トノ連名ヲ以テ記入ヲ求ムルコトヲ得
債權者ノ代理人又ハ事務管理人ヨリ記入ヲ求ムルトキハ其名及ヒ
分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共ニ記載ス可シ

無異議

第一千二百三十一條 債務者カ死亡シタルトキハ記入ハ債權者ノ選擇
ニ因リ其債務者ニ對シ又ハ其總テノ相続人ニ對シ之ヲ爲スコトヲ
得

抵當ノ負擔アル不動産カ相續ノ分割ニ因リ一人ノ相続人ニ歸シタ
ル場合ニ於テハ其一人ノミニ對シ記入ヲ爲スコトヲ得

第三者ノ設定シタル抵當ニ關シテハ設定者ニ對シ記入ヲ爲スモノ
トス

(元尾崎)債務者死亡シタルモ第三者ノ抵當ヲ供シタル場合ニ
ハ更ラニ手續ヲ爲スニ及ハサルヘシ(栗塚)或ハ疑ヲ容ル、者

アラソ何トナレハ第三者ハ元義務者ニアラサレハ抵當物ヲ供ス
ルノ義務ナキモノナレハナリ

第一千二百三十二條 登記官吏カ記入簿ニ明細書ノ箇條ヲ記載シタル
トキハ其各明細書ニ記入簿ノ冊數及ヒ葉數ト受取簿ノ順序番號ト
ヲ指示シ且記入ノ所爲、場所及ヒ日附ヲ登記シタル上、二通ノ明
細書ノ各葉ニ同一ノ割印ヲ押捺ス

明細書ノ一通ハ抵當ノ證明書ト共ニ之ヲ要求者ニ還付シ他ノ一通
ハ登記官吏自己ノ擔保ノ爲メ之ヲ保存ス

右保存シタル明細書ヲ毎年併合シテ記入ノ正本ト成スコト及ヒ其
記入ノ見出簿ヲ作ルコトハ規則ヲ以テ之ヲ定ム

(松岡)本條ハ詳記シ置タトキハ却テ宜シテ得サルニ付キ僅カ
ニ粗記スルニ止メ可成手續細則ニ譲リ置クヲ可トス(南部)本
條ハ第一項ヲ登記官吏カ記入簿ニ明細書ノ箇所ヲ記載シタルト

キハ其二通ノ明細書ノ各葉ニ同一ノ割印ヲ押捺シ其一通ハ抵當
ハ抵當ノ疏明書ト共ニ之ヲ要求者ニ還付シ他ノ一通ハ登記官吏
自己ノ擔保ノ爲メ之ヲ保存ストシ第二項ハ其他ノ細則ヘ別ニ之
ヲ定ムトシタシ可決ス

第千二百三十三條 明細書ノ箇條ノ脱漏不足又ハ訛誤ニ因リ不完全
ナル記入ノ爲メ第三者カ抵當ノ或ル要點ヲ知り得サリシヨリ生シ
タル損害ヲ證明スルトキハ其請求ニ因リ記入ノ無効ヲ宣告スルコ
トヲ得

無異議

第千二百三十四條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ記入ハ三十
年間其效力ヲ有ス三十年後ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタ
ルトキト雖モ其記入ノ效力ヲ失フ

右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セス但其代人ニ對スル求償

ヲ妨ケス

然レトモ三十年ノ期間滿了前ニ記入ヲ更新シ舊記入ノ日附ヲ精確
ニ記載シタルトキハ抵當ノ順位ハ舊記入ト同一ノ日附ニテ存ス
記入ノ效力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新記入ニ同シク其更新ノ日附ニ於
テノミ效力ヲ生ス

(松岡) 債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ主タ
ル債權ハ成存セルニ其記入ノ效力ヲ失フト云フハ不都合ナリ(一
村田) 主タル債權末タ消滅セサルニ從タル擔保ノ效力ヲ失スル
ト云フハ原則ニ反セリ又賃借權ノ場合ニ於テ期限ノ更新シタル
トキハ其擔保消滅ストシタルニ本條ハ更新スルモ抵當ハ消滅セ
サルモノノ如ク前後且吾スルモノトス(南部) 債權ノ時効カ中
斷又ハ停止ニ係リタルトキハ其記入ノ效力ヲ失フト云フハ他ノ
債權者ヲ害スルノ恐レアレハナリ(栗塚) 從タル擔保ニハ中斷

又ハ停止ノ場合アラサルヲ以テ自ラ消滅ニ歸スヘシ
第一千二百三十五條 三十年ノ期間内ニ於ケル記入ノ更新ハ舊記入後
ニ起リタル債務者ノ破産、無資力又ハ死亡ニ拘ハラズ之ヲ爲スコ
トヲ得

無異議

第一千二百三十六條 登記官吏ハ更新ノ要求書ノ正本二通ヲ受取リタ
ル上ニテ記入ノ更新ヲ爲シ其一通ニハ割印ヲ押シ其更新ノ陳述及
ヒ日附ヲ記シテ之ヲ要求者ニ還付ス
無異議

第一千二百三十七條 記入ノ費用ハ債權者有債名義ニテ取得シタルト
キハ債務者及ヒ債權者各其半額ヲ負擔ス
更新ノ費用ハ債權者ノミ之ヲ負擔ス
（元尾崎）無債名義ノ場合ニ於ケル更新ハ債務者ノ負擔ニ屬ス

ヘキヤ（栗塚）然リ（南部）前條ハ其更新ノ陳述及ヒ日附ヲ記
シテト云ヘルヲ刪除スヘシ何トナレハ第一千二百三十二條ヲ修正
シタル旨ニ從ヒシナリ

第一千二百三十八條 記入ニ關スル争ヒハ抵當財産所在地ノ裁判所ニ
之ヲ訴ヘ又債權者ニ對スル召喚又ハ告知ハ記入ニ付キ選擇シタル
假住所ニ之ヲ爲ス

（松岡）本條ハ第一千二百二十八條刪除ノ旨ニ從ヒ又債權者以下
ヲ刪除ヘシ可決ス（元尾崎）「訴ヘ」トアルヲ「訴フ可シ」ト
スヘシ可決ス

第二款 記入ノ抹殺、減少及ヒ正誤

第一千二百三十九條 記入ノ抹殺ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

第一 記入ノ關係スル債權カ無効タリ若クハ銷除スヘキモノタ
ルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ

第二 記入ヲ爲シタル抵當力有效ニ設定セラレス即チ法律ニ從テ成立セサルトキ

第三 記入カ第一千二百三十三條ニ依リ銷除スヘキモノナルトキ
右ハ第一千二百四十五條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ記入ヲ抹殺スルコトヲ妨ケス

(元尾崎)第一ノ全部ノ消滅ト云ヘルハ債權ノ消滅シタルトキ
チ云フヤ(栗塚)然リ(元尾崎)第一ノ記入ノ關係スルト云ヘル文字ハ刪除シテハ如何(南部)單ニ債權ト云フニテハ何ノ債權タルチ知ルヘカラス(村田)第一ハ記入ノ關係スルチ刪リ第二ハ記入ヲ爲シタルノ文字ヲ除クヘシ可決ス

第一千二百四十條 記入ノ抹殺ハ債務者又ハ其承繼人ノ請求ニ因リ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但下ニ規定シタル方式ニ於テ債權者ヨリ之ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

無異議

第一千二百四十一條 婦ノ法律上ノ抵當力其債權ノ擔保ニ必要ナルヨリ多クノ不動産ニ付キ記入アリ又ハ其債權ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ記入アリタルトキハ夫又ハ其承繼人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此記入ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但抵當力或ル不動産ニ付キ制限ナキトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リ債權額ノ評價ナキトキニ限ル
(栗塚)本條以下ハ最初再調査ヲ兼既ニ議了シタルモノニ係ルチ以テ諒知セラレタシ

第一千二百四十二條 右ニ同シタ後見人又ハ其承繼人ハ未成年者又ハ禁治產者ノ擔保ニ必要ナルモノ、外ニ爲シタル記入ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但親屬會議ノ決議ニ因リ或ル不動産ニ付キ抵當ノ制限ナク又ハ債權額ノ評價ナキトキニ限ル

(村田)後見會議ト云フモノナキカ(栗塚)然リ(笑作)但親
屬會議ノ決議ニ因リトアルハ但親屬會議ノ決議ニ因ルトスヘキ
ニアラスヤ(栗塚)或ル不動産ニ付キトアルチ或ル不動産ニト
シ抵當ノトアルチ抵當チトシ制義ナクトアルチ制限セストシ債
權額ノ評價ナキトアルチ債權額チ評價セサルトシ前條モ之ト同
一ニ改ムヘシ可決ス

第一千二百四十三條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ第
千二百十三條ニ記載シタル如ク過度ナルトキニ非サレハ債務者其
減少チ請求スルコトチ得ス

債務者ハ常ニ債權者ノ記入シタル債權ノ評價ノ減少チ請求スルコ
トチ得但設定證書又ハ別證書チ以テ評價チ爲サ、ルトキニ限ル
無異議

第一千二百四十四條 遺言上ノ抵當ハ相續ノ不動産ニ付キ遺言者制限

チ爲サス又ハ債權ニ付キ評價チ爲サスシテ之チ設定シタルトキハ
相續人其減少チ請求スルコトチ得

(村田)本條ハ債權ニ付キ評價チ爲サスシテトアルチ債權チ評
價セスシテトスヘシ可決ス(栗塚)制限ト云ヘル文字ノ上ニ「
其」ト云フ字チ加ヘシ可決ス

第一千二百四十四條ノ二 債務カ半額以上消滅シタルトキハ猶ホ三種
ノ抵當ニ付キ金額ノミノ記入チ減少スルコトチ得

債務者ハ一分ノ辨濟チ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ記入ノ繰邊ニ
之チ附記スルコトチ得

(笑作)一分ノ辨濟チ爲シト云ヘルハ些少ノ辨濟チ爲スモト云
フニアリヤ(南部)然リ(尾崎)本條ノ規定アラサルモ抵當チ
減少スルニ差支ナシ(南部)抵當ハ減少スルチ得ヘキモノニア
ラス(笑作)半額以上ト云フ制限チ附シタルハ如何(栗塚)個

ハ別種ノ問題ニシテ半額以上トスルカ四分一以上トスルカノ論
點ニ歸スヘシ(笑作)金額ノミノ記入ヲ減少スルハ誰ノ利益ナ
リヤ(栗塚)債務ノ判額以上ヲ辨済シタルトキハ記入ノ減少ヲ
爲ス假令ハ最初千圓金ノ記入アルモノハ五百圓ノ辨済ヲ爲シタ
ルトキハ五百圓ノ記入ヲ減少シ世上ノ信用ヲ維持スルコトヲ得
ヘシ只半額以上ニ至ラサル間ハ其辨済シタル額ノミヲ欄外ニ附
記スルヲ得ヘシト云フニアリ(南部)個ハ此儘ニ経過シ他ノ關
係ノ條ニ於テ併論セラレタシ其義ニ決ス

第一千二百四十五條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カ
レタル不動産又ハ評價ヲ改メタル金額ヲ指示ス

右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ記入ヲ抹殺シ第二ノ場合ニ於テハ之
ヲ減少ス

無異議

第一千二百四十六條 前數條ニ從ヒ記入ヲ或ル不動産ニ減少シタル場
合ニ於テハ其不動産カ債權者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ意
外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債權者ハ抵當ノ補充ヲ請求スル
コトヲ得

無異議

第一千二百四十七條 記入ノ抹殺及ヒ減少ハ確定判決ニ依ルニ非サレ
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス又公正證書ヲ以テスルニ非サレハ債權者之
ヲ承諾スルコトヲ得ス

(村田)抹殺及ヒトアルハ抹殺又ハトスヘシ可決ス(村田)公
正證書トアル公正ノ文字ヲ刪除スヘシ可決ス

第一千二百四十八條 任意ノ抹殺又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ
其抹殺又ハ減少ヲ承諾スルニハ債權者其債務ノ辨済ヲ受取り又ハ
之ヲ追認スルノ能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス

若シ抹殺カ右ノ外第千二百三十九條ニ記載シタル原因ノ一ニ基ク
トキハ債權者和解スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス
又抹殺又ハ減少カ抵當チ無償ニテ拋棄スルノ性質ヲ有スルトキハ
債權者無償ニテ債權チ處分スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

（果塚）第二項冒頭ノ「若シ」ハ刪除スヘシ可決ス

第千二百四十九條 記入ノ抹殺又ハ減少チ承諾スル爲メノ委任ハ公
正證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

然レトモ抹殺又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ債務者ノ免責チ
承諾スルノ權限チ有シタル代理人ニ於テ其抹殺又ハ減少チ承諾ス
ルコトヲ得

和解又ハ無償ノ拋棄ニ付テハ委任ハ明示タルコトヲ要ス

（笑作）本條ノ公正證書トアル公正ノ文字ハ刪除スヘキヤ（果
塚）然リ

第千二百五十條抹殺又ハ減少チ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ記入ノ緣

邊ニ附記スルコトヲ要ス

登記官吏ハ公證人ノ證書又ハ判決書ノ公正ナル謄本ヲ受取リタル
上ニ非サレハ右ノ附記ヲ爲スコトヲ得ス但判決書ノ謄本チ差出ス
場合ニ於テハ其判決ノ確定ト爲リタル旨チ裁判所書記ノ登記シタ
ルコトヲ要ス

第千二百二十五條末項及ヒ第千三百四條ハ登記官吏ノ拒絕及ヒ其
責任ニ之ヲ適用ス

（笑作）減少チ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ記入ノ緣邊ニ附記ス
ルト云フハ如何（南部）合意又ハ判決アリシ旨チ附記スルノ義
ナリ（果塚）第二項ハ公證人ノ證書又ハ判決書トアルチ證書ノ
正本又ハ判決書トスヘシ然ラサレハ公正ナル證書ト云フ意味ノ
如クナレハナリ可決ス（南部）第千二百二十五條第四項證書ニ

依リトアルヲ證書ノ正本ニ依リトシタシ可決ス

第一千二百五十一條 抹殺又ハ減少ヲ後日ノ判決ニテ銷除若クハ解除シタルトキハ其判決ハ更ニ記入ノ縁邊ニ之ヲ附記ス此場合ニ於テハ其記入ハ前債權者ノ爲メ其效力ヲ回復ス然レトモ前後ノ判決ノ間ニ於テ不動産ニ付キ權利ヲ取得シ後ノ判決ノ公示前ニ其權利ヲ記入シタル第三者ニハ此記入ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

(果報)本條ハ留保中ノ一ニ當ルヲ以テ追テ報告スヘシ

第一千二百五十二條 記入、更新、抹殺又ハ減少ニ訛誤又ハ脱漏アルモ之カ爲メ銷除ヲ爲スニ足ラサルトキハ當事者ノ協議又ハ判決ヲ以テ之ヲ正誤ス

無異議

第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位

第一千二百五十三條 凡ソ不動産ニ付キ記入シタル抵當債權者ハ其不

動産ノ代價ノ配當ニ有益ニ加入スルコトヲ得ルニ因リ無特權債權者ニ先ツモノトス

法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ヲ有スル數人ノ債權者間ニ於テハ其配當加入ノ順位ハ數箇ノ記入ヲ同日ニ爲シタルトキト雖モ其記入ノ前後ニ因リテ之ヲ定ム但登記官吏ノ第一千二百二十九條ノ規定ヲ遵守セサル場合ニ於テハ之ニ對スル責任ノ訴權ヲ妨ケス

(笑作)第一項加入スルコトヲ得ルニ因リ云々トアル「ルニ因リ云々」ヲ删除シ其不動産トアル上ニ無特權債權者ニ先チト云ヘル文字ヲ加フヘシ可決ス

第一千二百五十四條 記入ハ掲載シタル利息及ヒ定期ノ附從物ニ其經過シタル最後ノ二個年分ニ限り主タル債權ト同一ノ順位ヲ得セシム但二個年以外ノ利息及ヒ附從物ノ爲メ債權者ノ日後記入ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス然レトモ此記入ハ其日附ニ於テノミ效力ヲ生スルモ

ノトス

（尾崎）日後記入ヲ爲スノ權利ヲ妨ケスト云フハ如何（笑作）
債權者日後ノ記入ヲ爲スノ權利ト云フハ二個年以外ノ場合ヲ云
フヘシ（村田）效ヲ生スルトアルチ效力ヲ生スルトスヘシ可決
ス

第一千二百五十五條 抵當ノ順位ハ債權ヲ條件附ナルトキ又ハ信用ヲ
開キテ爲ス貸付ノ如ク漸次ノ支拂ヨリ生スルトキト雖モ亦記入ニ
因リテ之ヲ定ム

無異議

第一千二百五十六條 債權者カ數箇ノ不動産ニ付キ抵當ヲ有シ其各個
ノ代價カ同時ニ清算アリシトキハ其債權ハ總不動産ノ價額ノ割合
ニ應シテ之ヲ分配ス可シ

漸次ノ清算ノ場合ニ於テ右ノ債權者カ不動産中一箇ノ代價ニ依リ

テ全ク辨濟ヲ受ケ此一箇ノ不動産ニ付キ其債權者ノ次ニ抵當ヲ有
スル一人又ハ數人ノ債權者ノ爲メニ損失ノ生スルトキハ其一人又
ハ數人ノ債權者ハ他ノ各不動産ニ付テハ其已レニ先チタル債權ニ
於ケル其各不動産ノ分擔部分ニ限り自己ノ債權ノ爲メ其相互ノ順
位ヲ以テ右辨濟ヲ受ケシ債權者ノ抵當ニ當然代位ス

無異議

第一千二百五十七條 前條ノ代位ハ原債權者ニ次テ右各不動産ニ付キ
記入ヲ爲シタル債權者ニ對シテ其效ヲ生ス

右ノ代位者カ記入ノ縁邊ニ其代位ヲ附記シタルトキハ其代位者チ
順序配當手續中ニ加ハラシムルコトヲ要シ且其承諾アルニ非サレ
ハ何等ノ抹殺又ハ減少ヲモ爲スコトヲ得ス

若シ右ノ不動産ニ付キ抵當ノ記入アラサリシトキハ代位者其記入
ヲ爲シ且右ト同一ノ目的ニテ其縁邊附記ヲ爲スコトヲ得

（元尾崎）本條ハ記載ヲ要セス（笑作）第三項ハ原債權者ノ記入ナキトキチ云フカ（栗塚）然リ原債權者ノ文字ヲ挿入シ記入アラサリシトキトアルチ記入ナキトキトシタシ（清岡）原債權者ノ抵當ノ記入チ爲サ、ルトキトシテハ如何（笑作）原債權者ノ抵當ノ記入ナキトキト云ヘルチ可トス可決ス（村田）「若シ」チ刪ルヘシ（南部）此「若シ」ハ刪除スルニ及ハス

第一千二百五十八條 凡ソ債權チ處分スルノ能力アル抵當債權者ハ同一債務者ノ他ノ債權者ノ利益ニ於テ自己ノ抵當又ハ其順位ノミチ拋棄スルコトヲ得但第五百二十二條及ヒ第五百二十五條ニ於テ更改ニ關シ規定シタルモノヲ妨ケス

若シ抵當債權チ數人ニ對シ讓渡、拋棄又ハ代位ノ目的トナセシトキハ優先權ハ承權人中記入ノ縁邊ニ自己ノ權利ノ設定證書チ附記シ又ハ記入ノ有ラサリシトキハ之ヲ爲シテ其取得チ第一ニ

公正シタル者ニ屬ス

無異議

第一千二百五十九條 右ノ外第千百九十一條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

無異議

第一千二百六十條 抵當債權者又ハ無特債權者カ記入ナキ抵當チ知リテ之ヲ自認シタリト雖モ記入ノ欠缺チ申立ツルノ權利チ失ハス（清岡）記入ノ欠缺ト云ヘルハ他ノ債權者ノ記入ノ欠缺チ指スカ（笑作）然リ（栗塚）申立ツルト云フ文字ハ最初利唱ノ文字チ使用シタルモ修正セラレタリ（尾崎）利唱ト云ヘル文字チ回有スヘシ可決ス

第一千二百六十一條 不動産賣拂代價チ以テ全部ノ辨濟チ受ケサル抵當債權者ハ其殘額ニ付テハ無特債權者タリ

若シ不動産ノ賣拂ニ先チテ動産有價物ノ配當ヲ爲ストキハ抵當債權者ハ其債權金額ノ爲メ無特權債權者トシテ假リニ其配當ニ加入ス

其後ニ至リ抵當不動産ノ代價ノ配當アルトキハ抵當債權者ハ動産有價物ニ付キ何等ノ辨濟ヲモ受ケサリシカ如ク其配當ニ加入ス然レトモ此配當ニ於テ全ク辨濟ヲ受ク可キ者ハ動産ノ配當ニテ受取リタル金額ヲ減除スルニ非サレハ其抵當ノ配當額ヲ受クルコトヲ得ス其減除シタル金額ハ動産財團中ニ之ヲ返還ス

不動産ノ代價ノ配當ニ於テ一分ノミノ辨濟ヲ受クルコトヲ得可キ者ニ付テハ配當ニ加ハルコトヲ得サリシ殘額ニ從ヒ其動産財團ニ對スル權利ヲ定ム但此割合外ニ受取リタルモノハ其抵當ノ配當額中ヨリ扣除シ之ヲ動産財團中ニ返還ス

右ノ返還金額ハ純粹ノ無特權債權者ト有益ニ配當ニ加入スルヲ得

サルカ又ハ債權ノ一分ノミニ付キ之ニ加入シタル抵當債權者トノ間ニ於テ更ニ之ヲ配當ス

(元尾崎)末項ハ如何ナル意義カ(南部)配當ニ加入スルヲ得サル抵當債權者又ハ之ニ加入シタル抵當債權者ト云フニアリ(村田)第三項得可キ者トアル文字ハ得ヘキ者トスルヲ要ス可決ス

第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ效力

總則

第一千二百六十二條 抵當不動産カ讓渡サレ又ハ用益權其他ノ物權ヲ負擔シタルトキハ其設定證書ノ登記前ニ記入ヲ爲シタル抵當債權者ハ第三取得者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ請求スルノ權利ヲ保有シ又此不動産ノ賣拂代價ヲ以テ辨濟ヲ受クル爲メ其不動産ノ徵收ヲ訴追スルノ權利ヲ附從ニテ保有ス

然レトモ第二百二十六條及ヒ第二百二十七條ニ規定シタル期間ヲ以テ
爲シ又ハ更新シタル貸借ハ抵當債權者之ヲ遵守スルコトヲ要ス
本條ハ其設定證書トアル設定ノ二字ヲ刪除ス

第一千二百六十三條 抵當カ所有權ノ支分ニ存シ債務者其權利ヲ拋棄
シタルトキハ其拋棄ノ登記前ニ記入ヲ爲シタル債權者ハ其拋棄ニ
拘ハラス追及權ヲ保有ス

無異議

第一千二百六十四條 抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無
特權債權者ニハ競落ノ登記前ニ其記入ヲ爲シタルトキニ非サレハ
之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス但第一千二百二十條ニ掲ケタル二箇ノ
場合ニ於テ爲セル記入ノ無効タルコトヲ妨ケス

(元尾崎) 既ニ差押ヲ爲シタル債權者アルニモ拘ハラス其財産
ニ付キ記入ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ(栗塚) 記入スヘキ原因差押

民再調三ノ一一八

ノ前ニ在ラサルヘカラス(南部) 差押後ノ記入ハ公正證書ニ依
ルヘキヲ要スルニ既ニ公正證書ニ依ラシムヘキ精神ヲ除去シタ
ルハ不可ナルニアラスヤ(清岡) 本條ノ場合ニ於テハ私證書ヲ
以テスルヲ得サルヘキ旨ヲ示スヘシ(元尾崎) 公正證書ヲ以テ
設定スル抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無特權債
權者ニハ競落ノ登記前ニ其記入ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ對抗
スルコトヲ得但云々トシタシ可決ス

第一千二百六十五條 第三所持者ノ破産無資力又ハ死亡ハ其取得證書
ノ登記アルマテハ抵當記入ノ妨礙ト爲ラス

無異議

第一千二百六十六條 第三所持者ハ場合ニ從ヒ左ノ方法ヲ用フルコト
ヲ得

第一 抵當債務ヲ辨濟スルコト

第二 滌除スルコト

第三 財産檢索ノ抗辨ヲ以テ對抗スルコト

第四 不動産ヲ委棄スルコト

其他第三所持者ハ所有權徵收ヲ受クルコト有リ

(清岡)其他第三者ハ所有權徵收ヲ受クルコト有リト云フハ如何(栗塚)左ノ方法ヲ用ユルコトヲ得ト云フニテ第一乃至第四ノ件目ヲ示シタレハ其他云々ト云フ除外ヲ示セリ(委員長)自由ニ任カスヘシト云フモ亦一方法ニアラスヤ(委員長)方法ヲ用フルコトヲ得トアルヲ方法ニ依ルコトヲ得トシ其他云々ノ項ハ第五所有權徵收ヲ受クルコトトシタシ可決ス

第一款 抵當債務ノ辨濟

第一千二百六十七條 第三所持者ハ抵當債務ノ滿期ト爲ルニ從ヒ之ヲ辨濟スルニ於テハ所有權徵收又ハ妨礙ヲ受クルコト無シ

無異議

第一千二百六十八條 第三所持者カ債務ノ全部又ハ一部ヲ辨濟シタルトキハ第五百四條第一號第五百五條第三號及ヒ第四號ニ從ヒ其辨濟ヲ得タル債權者ノ屬スル他ノ抵當、擔保及ヒ利益ニ代位ス又第三所持者ハ其辨濟ヲ得サリシ債權者ヨリ所有權徵收ノ訴追ヲ受クルコトアル可キ場合ノ爲メ自己ノ所持スル不動産ノ負擔スル抵當ニ付キ辨濟ヲ得タル債權者ニ未定ニテ代位ス (箕作)他ノ抵當ト云ヘルハ如何第三者債務者ノ爲メニ代償シタルトキハ債權者ノ有セル其抵當ニ代位スルニ非スヤ(栗塚)他ノ抵當ニモ代位スヘキ場合アルヘシ

第二款 滌除

第一千二百六十九條 第三所持者ハ記入シタル總テノ抵當債務ヲ辨濟セサルモ債權者ニ其記入ノ順序ニ從ヒ不動産ノ取得代價、其評價

若クハ之ニ超ユル金額ヲ辨済シ又ハ債權者ノ爲メニ之ヲ供託シテ
不動産ノ負擔ヲ免カシムルコトヲ得但下ニ規定セル如キ提供及ヒ
濺除手續ヲ爲シタル後債權者ノ明示又ハ默示ノ承諾アリタルコト
ヲ要ス

(委員長)本條但以下ハ如何ナル意味カ(笑作)提供及ヒ濺除
ヲ爲スニハ債權者ノ明示又ハ默示ノ承諾アリシモノナラサルヘ
カラスト云フニアリ

第一千二百七十條 停止條件附ニテ不動産ヲ取得シタル者ハ條件ノ成
就ニ因リ其權利ノ定マラサル間ハ濺除スルコトヲ得ス

解除條件附ニテ取得シタル者ハ條件ノ到來セサルニ因リ其權利ノ
定マル前ト雖モ濺除スルコトヲ得

此場合ニ於テ第三所持者ノ提供カ承諾ヲ得タルモ其金額ハ抵當債
務ヲ全ク辨済スルニ足ラスシテ其抵當ヲ抹殺シタル後第三所持者

ノ取得カ條件ノ到來ニ因リテ解除スルニ於テハ辨済ヲ得スシテ抹
殺ヲ受ケタル抵當債權者ノ記入ハ第一千二百五十一條ニ從ヒ之ヲ回
復ス

又右ノ場合ニ於テ提供カ承諾ヲ得スシテ下ニ規定セル如ク不動産
ヲ競賣ニ付シタルトキハ競落ハ第三所持者ノ爲メ宣告アリタルト
其他ノ者ノ爲メ宣告アリタルト間ハス以後解除條件ヲ免カル、
モノトス

(元尾崎)解除條件ニテ取得シタル者ハ同時解除セラル、ヤ知
ルヘカラサルニ之ヲ濺除スルモノアリヤ(南部)個ハ解除條件
ノ性質ナリ(元尾崎)條件ノ成就ニ因リトアルハ條件ノ成就セ
サルニ因リト云フ義ニアラスヤ(栗塚)條件ノ成就セス其權利
ノ定マラサルト云フ義ナリ(笑作)末項ノ解除條件ヲ免カル、
ト云ヘルハ道理上奇異ニ屬スヘシ

第一千二百七十一條 抵當ヲ濫除スルノ權利ハ第三所持者ニシテ主タル債務者ト爲リ又ハ保證人ト爲リテ自身ニテ抵當債務ノ責ニ任スル者ニ屬セス

右ノ權利ハ債務者ノ相續人ニシテ其債務ノ自己ノ部分ノミテ辨済シタル者ニ屬セス

又右ノ權利ハ他人ノ債務ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵當ト爲シタル者又ハ其相續人ニ屬セス

(元尾崎) 濫除ト辨済トハ如何ナル差異アリヤ(南部) 濫除ハ其物ニ對スル代價ヲ支拂フヘキニ依テ之ヲ爲スヘシ辨済ト云ヘ

ハ其物ニ付キ負擔シタル債務ヲ一切償却セサルヘカラサルナリ
第一千二百七十二條 抵當債權者ヲ參加セシメタル總テノ競落ニ付テ

ハ濫除ヲ爲スノ限ニ在ラス

公用徵收ニ付テモ亦同シ

民再調三ノ二二二

右ハ抵當債權者ノ其順位ヲ以テ競落代價又ハ徵收價金ノ配當ニ加入スルノ權利ヲ妨ケス

無異議

第一千二百七十三條 使用權、住居權及ヒ地役權ハ濫除ニ係ラサルモノトス若シ抵當不動産ニ是等ノ權利ノ負擔アルトキハ抵當債權者ハ其權利ヲ斟酌セスシテ債務者ニ對シ不動産ノ賣却ヲ訴追スルコトヲ得

債務者ノ第一千二百六十二條ニ記載シタル制限ヲ超ヘテ爲シタル貸借ニ付テモ亦同シ

(栗塚) 前條第一項總テノ競落トアルハ總テノ公賣トシテハ如何可決ス(元尾崎) 第一千二百六十二條ヲ引授シタルハ適當ナラス該條中ニ示シタル第二百二十六條及ヒ第二百二十七條ニ必要アルニ過キサレハナリ(南部) 第一千二百六十二條ヲ引授シタルモ不

都合ナシ（村田）第千二百六十二條第二項ニ記載シタルトスヘシ可決ス

第千二百七十四條 第三所持者ハ債權者ヨリ訴追ヲ受ケサル間ハ何時ニテモ濺除スルコトヲ得又辨濟スルヤ不動産ヲ委棄スルヤノ備告ヲ受ケタル後一个月内ニ濺除スルコトヲ得但此ニ違フトキハ其權ヲ失フ

然レトモ右ノ失權ハ當然生セス裁判所ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス但裁判所ハ第三所持者カ正當ノ障礙アリシコトヲ説明シ且債權者ノ其遲延ノ爲メニ現實ノ損害ヲ受ケサル可キニ於テハ失權ヲ宣告セサルコトヲ得

又債權者ヨリ第千二百七十八條第二號ニ規定シタル一个月ノ期間ニ失權ヲ請求セサルニ於テハ失權ヲ宣告スルコトヲ得ス

（委員長）又辨濟スルヤ不動産ヲ委棄スルヤトアル辨濟ノ文字

民再調三ノ一二二

ハ不動産ニハ關係ナキヤ（栗塚）辨濟ハ金錢ヲ以テスルヲ云フ第千二百七十五條 第三所持者ハ濺除ノ準備トシテ自己ノ權利ヲ公示シ且第千八百八十四條及ヒ第千八百八十五條ニ從ヒ讓渡人ノ先取特權ヲ公示スル爲メ自己ノ證書ヲ登記スルコトヲ要ス

右ノ後第三所持者ハ其不動産ノ負擔セル先取特權又ハ抵當ノ目錄ヲ登記官吏ニ要求ス

（清岡）讓渡人ト云ヘルハ債務者ヲ指スカ（元尾崎）然ルヘシ（清岡）債務者先取特權アリヤ（栗塚）賣主ヲ指スヘシ（元尾崎）個ハ三個ノ人ニ交渉セル場合ニシテ其第一ノ人ノ有セル先取特權ヲ云フヘシ（笑作）且以下ハ且以上ノ註解ノ如シ又一「證書ヲ登記スルコトヲ要ス」トアル上ニ取得ノ二字ヲ加ヘタシ可決ス

第千二百七十六條 上ニ記載シタル一个月ノ期間ニ第三所持者ハ記

入シタル各債權者ト第千二百二十四條、第千八百八十四條及ヒ第千
百八十五條ニ從ヒ登記カ記入ニ同シキ效力ヲ有スル債權者トニ左
ノ諸件ヲ告知スルコトヲ要ス

第一 取得證書ノ旨趣、其日附及ヒ登記ノ日附、讓渡人及ヒ取
得者ノ氏名、職業、住所讓渡ケタル不動産ノ性質、其所在地、
讓渡ノ代價及ヒ其負擔ヲ指示スル要領書但公換、贈與若クハ
遺贈ニ因リテ權利ヲ取得シタルトキハ其評價ヲ指示ス可シ

第二 各記入ノ日附、其帳簿ノ葉數、其債權者ノ氏名假住所及
ヒ主タル債權トシテ記入シタル金額ヲ明示スル記入表

第三 不動産所在地ノ裁判所ノ管轄内ニ於ケル第三所持者ノ假
住所ノ選定

第四 第三所持者ハ右ノ債權者カ法律ニ從ヒ且一個月ノ期間ニ
増價競賣ヲ求メサルニ於テハ滿期、未滿期又ハ條件附ノ債權

民再調三ノ一二三

ヲ區別セスシテ各債權者ノ記入ノ順序ニ從ヒ之ニ不動産ノ代
價、其評價若クハ之ニ超ユル金額ノ辨濟又ハ其債權者ノ爲メ
ニ金額ノ供託ヲ爲サントスル旨ノ陳述但一個月ノ期間ハ距離
ニ應シテ之ヲ増加スルモノトス
(粟塚)本條ハ第二「假住所」ヲ刪リ第三ハ全除スルヲ要ス(一
笑作)左ノ諸件ヲ告知スルコトヲ要ストアルヲ左ノ書類ヲ送達
スルコトヲ要ストシテハ如何(清岡)第三ハ存在セシメタシ(一
村田)通知ヲ送達トスルハ妥當ニアラス(清岡)但一個月ノ期
間ハト云ヘルヲ但此期間ハトシテハ如何(笑作)其債權者ノ爲
メニトアルハ其債權者ノ名ヲ以テトシタシ可決ス

第千二百七十六條ノ二 記入シタル債權者ノ中ニ先取特權ヲ有スル
讓渡人又ハ分割者アルトキハ前條第四號ニ定メタル陳述ニハ此債
權者ヲシテ同一ノ期間ニ其解除訴權ヲ行ハント欲スル旨ヲ述ヘシ

ル爲ノノ催告ヲ添フルコトヲ要ス但第千八百八十七條及ヒ第千八百十八條ノ明文ニ因リ法律上ノ抵當ニ變性シタル先取特權ヲ有スル者ニ付テモ亦同シ

無異議

第千二百七十七條 讓渡證書中ニ抵當ト爲シ又ハ爲サ、ル財産アルトキハ取得者ハ抵當財産ノ爲ノニ非サレハ提供ヲ爲スコトヲ得ス又増價競賣ノ要求ハ其提供ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス（清岡）又ハ爲サ、ル財産ト云ヘルハ意義分明ナラス（元尾崎）増價競賣ト云ヘルハ提供シタル以上ノ事タルニ屬スヘシ（笑作）提供ニ於テスルニアラサレハ増價競賣スルヲ得サルナリ第千二百七十六條（ノ二）陳述ノ文字ヲ提供トシ「旨」ヲ刪ルヘシ可決ス（元尾崎）本條ハ又以下チ又増價競賣ハ此提供ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ストシテハ如何可決ス（栗塚）抵當財産ノ爲ノニ

民再調三ノ一二四

非サレハ提供ヲ爲スコトヲ得ストアルチ抵當財産ノ爲ノニノミ提供ヲ爲スコトヲ得トスヘシ可決ス

第千二百七十八條 凡ソ記入シタル債權者ニシテ上ニ定メタル提供ヲ承諾セサル者ハ左ノ方式、期間及ヒ條件ヲ以テ抵當財産ノ競賣ヲ要求スルコトヲ要ス

第一 其要求ニハ提供金額ノ上少クモ十分一ノ増價ニテ買受クルコトト其増額シタル代價ノ全部及ヒ費用ノ爲メ十分ナル保證人又ハ擔保ヲ供スル旨ノ陳述トヲ添フルコトヲ要ス若シ之ニ違フトキハ其要求ハ無効タリ但此場合ニ於テハ總テノ正本ニ要求者又ハ其特別代理人ノ署名アルコトヲ要ス

第二 右ノ要求ハ提供通知ヨリ一个月内ニ第三所持者ニ其選定シタル住所ニ於テ之ヲ通知スルコトヲ要ス若シ之ニ違フトキハ其要求ハ亦無効タリ但此期間ハ債權者ノ選定シタル住所ト

其日本ニ在ル本住所トノ間ニ於テ書類往復ノ爲メ八里毎ニ一日ヲ増加ス

第三 右ノ期間ニ於テ債務者タルト否トチ問ハス前所有者ニ右ニ同シキ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四 主タル債務者ニ非サル者カ抵當ヲ設定シタルトキモ亦同一ノ期間ニ於テ其債務者ニ通知ヲ爲スコトヲ要ス

右ノ期間ニ長短アルトキハ最長キ期間ニ從フ

(栗塚) 本條第二日本ト云ヘル文字ハ本邦トシ又住所撰定ト云ヘル事柄ハ必要アルニ付第千二百七十六條第三ハ回存シタシ(笑作) 要求ト云フハ裁判所ニ向テ爲ステ云フカ(栗塚) 然リ(元尾崎) 其増額シタル代價ノ全部トアルハ増額シタル部分ニ止マラス代價ノ全額ヲ指スヘキヤ(笑作) 然リ(元尾崎) 日本ニ在ル本住所ト云フヲ記示シタルハ如何(栗塚) 日本人ト雖モ上

海又ハ香港等ニ住所ヲ有スルコトナキニシモアラサレハナリ(笑作) 第千二百七十六條第三ハ回存セサレハ本條トノ權衡不都合アルヲ免レス可決ス(栗塚) 然ル以上ハ假住所ヲモ回存セサルヘカラス(元尾崎) 假住所ニ付テハ既ニ刪除シタルヲ以テ之ヲ回存スヘシト云フハ不可ナリ(栗塚) 然ラハ本條ノ場合ハ如何スヘキヤ(南部) 濰除ノ場合ニハ假住所ヲ設クヘキモノトシ本條第二ハ濰除ノ通知ヲ受ケタル者ハ假住所ヲ設クヘキ旨ヲ示シタシ(尾崎) 然ルヘシ(笑作) 其修正ハ報告委員ノ調査ニ讓リタシ(委員長) 假住所ノ義ハ濰除ノ場合ニノミ設置シ其他ノ場合ハ假住所ヲ設置スルニ及ハスト云フハ同一轍ニ出テサルヲ以テ此義ハ別ニ定ムルコトトシ本法中ヨリハ除去スヘシ(栗塚) 訴訟法中ニ挿入スルコトトスヘシ其義ニ決ス

第千二百七十八條ノ二 讓渡人又ハ分割者ニシテ其解除訴權ノ行使

チ留保セスシテ前條ニ規定シタル如ク増價競賣チ爲シタル者ハ其
訴權チ拋棄シタルモノト看做ス

若シ讓渡人又ハ分割者カ右ノ訴權チ保存セント欲スルトキハ増價
競賣ノ爲メ許與セラレタル期間ト同一ノ期間ニ第三所持者ニ其旨
チ告知スルコトヲ要ス若シ之ニ違フトキハ無効タリ但主タル債務
者トシテ前所有者ニ對シテ此ニ同シキ告知チ爲スコトヲ妨ケス
（笑作）前條右ノ期間ニ長短アルトキハ最モ長キ期間ニ從フト
云フハ刪除シテハ如何（村田）然ルヘシ（元尾崎）第千二百七
十二條第四但以下チモ刪除スヘシ可決ス（笑作）第一項増價競
賣チ爲シタル者ハトアルハ増價競買チ要求シタルトスヘシ主タ
ル債務者トシテトアルチ主タル債務者ナルトスヘシ可決ス

第千二百七十九條 定マリタル方式及ヒ期間チ以テ増價競賣ノ通知
アリタルトキハ其競賣ノ要求者ハ他ノ記入シタル債權者ノ承諾ナ

クシテ之チ言消スコトヲ得ス其債權者ハ此増價競賣ノ實行チ要求
スルコトヲ得

若シ競賣ノ實行アリタルトキハ下ノ第千二百九十條以下チ適用ス
（元尾崎）言消スト云フ字ハ不當ナリ（栗塚）言消ト云フ字ハ
已ニ議決シタル文字ナレハ變更スルハ不可ナリ（笑作）言消ス
コトヲ得スト云フハ一度發言シタルコトハ命言スルチ得スト云
フ義ナリ（笑作）之チ言消スコトヲ得スト云ヘル「之チ」ハ何
チ指スカ（栗塚）競賣チ指スヘシ（笑作）其競賣トシタシ可決
ス

第千二百八十條 債權者ノ何人ヨリモ有效ニ競賣チ求メサリシトキ
ハ不動産ノ濫除ハ債權者ノ間ニ發開シタル熟議上若クハ裁判上ノ
順序チ以テスル辨濟ニ因リ又ハ豫メ實物提供チ爲サスシテ債權者
ノ名チ以テスル供託ニ因リテ成ル

此場合ニ於テ總テノ抵當ハ之ヲ抹殺ス其元資ノ不足シタルモノト雖モ亦同シ

(委員長) 不動産ノ滌除ハト云フハ適當ナリヤ(栗塚) 不動産ニ債務ト云フ汚物ノ附着シアルヲ滌除スルノ義ナリ(笑作) 第一項ノ末ニ但此供託ニ付テハ豫メ實物提供ヲ爲スコトヲ要セストシ辨濟ニ因リ又ハトアル下「豫メ實物提供ヲ爲サスシテ」ト云ヘル文字ヲ刪除スヘシ可決ス(元尾崎) 發開シタルト云フ文字ヲ刪除シタシ何トナレハ此熟議ハ債權者ニ止マラス第三者ニモ關係スヘケレハナリ(笑作) 債權者ノ熟議ス若クハ裁判上ノ順序ト云フ義ナレハ債權者ノ間ノ熟議上云々トスヘシ可決ス

第一千二百八十一條 右ノ如ク滌除ヲ實行シタル後第三所持者ハ左ノ區別ニ從ヒ其讓渡人ニ對シ擔保ノ求償權ヲ有ス

第一 賣買ノ場合ニ於テハ其取得代價外ニ提供シ及ヒ辨濟シタ

ルモノ、爲メ

第二 交換其他ノ有價契約ノ場合ニ於テハ讓渡人ニ對スル自己ノ義務外ニ辨濟シタルモノ、爲メ但自己ノ供給シタル對價物ノ返還ヲ受ケサルトキニ限ル

第三 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ遺言者ノ免責ニ付キ辨濟シタルモノ、爲メ

第四 總テノ場合ニ於テ自己ノ負擔シタル滌除手續ノ費用ノ爲メ(元尾崎) 第三ノ場合ハ如何(笑作) 無償ニテ受ケタル者ヲ云フ(清岡) 取得代價ト云フハ賣買代價トシタシ可決ス

第三款 財産檢索ノ抗辨

第一千二百八十二條 自身ニテ且主トシテ抵當債務ノ責ニ任セサル第三所持者ハ訴追債權者ニ對シ同一債務ノ爲メニ抵當ト爲リタル他

ノ不動産ヲ豫メ檢索シテ之ヲ賣却セシメント求ムルコトヲ得但之
カ爲メニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 其不動産カ辨濟ノ有ル可キ場所ノ控訴院ノ管轄内ニ在ル
コト

第二 其不動産カ猶ホ主タル債務者ニ屬スルコト

第三 其不動産カ争ニ係ラサルコト

第四 其不動産カ債權者ノ記入ノ順位ト其價額トヲ斟酌シテ之
ニ全部ノ辨濟ヲ得セシムルニ不十分ナルノ明白ナラサルコト
右ノ抗辨ハ訴追ノ當初ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

(元尾崎)第四ハ換言スレハ不足カ充分ナルコトト云フ義ナリ
(栗塚)正面上不足カ不充分ナルコトト云フヲ得サルナリ(横
村)財産檢索ノ抗辨ト云フハ如何(笑作)先ツ他ノ財産調ヲ爲
サシムル義ナリ

民再調三ノ一二八

第千二百八十三條 第三所持者ハ第千二十條乃至第千二十三條ニ從
ヒ保證人ノ分限ヲ以テ己レニ屬スル檢索ノ利益ヲ拋棄シタルトキ
ト雖モ抵當檢索ノ抗辨ノ利益ヲ失ハス

(元尾崎)保證人ノ檢索ノ抗辨ト第三所持者ノ檢索トノ抗辨ハ
同義ニアラサルカ(南部)抗辨ノ要件ニ差異アリ(笑作)抵當
檢索トアルヲ抵當財産檢索トスヘシ可決ス

第千二百八十四條 他人ノ債務ノ爲メ自己ノ不動産ヲ抵當ト爲シタ
ル者及ヒ其相續人ハ檢索ノ抗辨ヲ以テ對抗スルコトヲ得
主タル債務者ノ相續人中ニテ訴追前ニ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ
辨濟シタル者ニ付テモ亦同シ

無異議

第四款 委棄

第千二百八十五條 第三所持者ハ所有權徵收ノ手續中何時ニテモ訴

追ノ目的タル不動産ヲ委棄スルコトヲ得

第三所持者ハ委棄ニ因リ訴追債権者ニ所持ノミチ委棄シテ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有トヲ保存シテ其危險ヲ擔任ス

(村田)第二項所持ノミチトアル文字釋當ニアラス(横村)委棄ト云フハ如何(南部)汝能ク之ヲ處セヨト云フヘキ打任セノ義ナリ(箕作)第二項ハ委棄ノ效力ヲ擧ケタルモノナリ(横村)第二項ハ其委任ニ因リ云々スルコトヲ得ト云フ意味ニ思惟セラ、恐レアリ(箕作)本條ハ第一項及ヒ第二項ヲ合併シ委棄スルコトヲ得トアル下「其委棄ニ因リ第三所持者ハ訴追債権者ニ所持ノミチ委付シ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有トヲ保存シテ其危險ヲ擔任ストシタシ可決ス

第一千二百八十六條 主タル債務者又ハ保證人トシテ自身ニ債務ヲ負擔シタルモノニ非サル第三所持者ノミチ委棄ヲ爲スコトヲ得

債務者ノ相續人中ニテ訴追ノ間ト雖モ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者及ヒ供物保證人ハ委棄ヲ爲スコトヲ得

(村田)訴追ノ間ト雖モトアルハ相續人ノミナラス供物保證人ニモ關係スヘシ(箕作)訴追ノ間ト云ヘル義ハ供物保證人ハトアル下ニ位置スルヲ可トス(元尾崎)供物保證人ハノ下訴追中ノト雖モノ數字ヲ挿入シ債務者ノ相續人中ニテ訴追ノ間ト雖モトアルヲ債務者ノ相續人中ニテトスヘシ可決ス

第一千二百八十七條 有效ニ委棄ヲ爲スニハ自身ナルト代人ノ資格ナルトヲ問ハス所有權徵收ノ訴追ニ被告トシテ出頭スルノ能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス

無異議

第一千二百八十八條 委棄ハ委棄者又ハ其部理代理人ノ署名シ且訴追債権者ニ告知シタル陳述ヲ以テ抵當財産所在地ノ裁判所ノ書記局

ニ於テ之ヲ爲スモノトス
裁判所ハ訴追債權者又ハ第三所持者其他ノ利害關係人ノ求ニ因リ
委棄ニ付テノ管財人ヲ選任ス但所有權徵收ノ訴追ハ此管財人ニ對
シ繼續ス

（尾崎）本條第一項ハ如何（南部）委棄ハ裁判所書記局ニ於テ
スト云フ義ナリ（箕作）委棄ハ裁判所ニ其届出ヲ爲シ且ツ之ヲ
訴追債權者ニ告知スヘシト云フ義ナリ（元尾崎）第一項ハ委棄
ハ委棄者又ハ其部理代理人抵當財産所在地ノ裁判所ノ書記局ニ
於テ之ヲ陳述シ其陳述書ニ署名シテ訴追債權者ニ之ヲ告知スル
コトヲ要ストシタシ（栗塚）同文中ニ之ヲノ字二個アルモ其指
ス處ヲ異ニスルト云フヲ領知セラルヘシ（渡）之ヲ告知スルコ
トヲ要スト云フ「之ヲ」ノ字ヲ除去スヘシ（村田）委棄ニ付テ
ノトアルハ委棄財産ニ付テノトスヘシ原案ノ儘ニ經過ス

第一千二百八十九條 第三所持者又ハ其代人ハ破産アルマテハ訴追債
權者ニ對スル總債務ト其時マテノ費用トヲ一个月内ニ辨濟シ又ハ
供託スルニ於テハ何時ニテモ委棄ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ
之ヲ消滅スコトヲ得但他ノ債權者ノ訴追ノ權利ヲ妨ケス又廢除ノ
期間カ經過セサルニ於テハ其債權者ニ對スル廢除ノ權利ヲモ妨ケ
ス

（横村）之ヲ消滅スト云フハ如何（栗塚）委棄ヲ消滅スノ義ナ
リ（横村）委棄ヲ消滅ストシテハ如何（栗塚）原案ノ儘ニテ明
了ナリ（元尾崎）委棄ト同一ノ方式ニ依リ委棄ヲ消滅スコトヲ
得ト云フハ賄賂ヲ得ス（栗塚）例ヘハ作爲シタルト同一ノ方法
ヲ以テ之ヲ破壞スルヲ得ト云フカ如シ（清岡）一个月内ト云ヘ
ルハ委棄ノ消滅ヲ爲シタル以后一个月内ニ辨濟セサルヘカラス
ト云フ義ナルヤ（箕作）第三所持者又ハ其代人ハ破産アルマテ

ハ何時ニテモ委棄ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ之ヲ清算スゴ
トヲ得此場合ニ於テハ訴追債權者ニ對スル總債務ト其時マテノ
費用トヲ一ヶ月内ニ辨濟シ又ハ供託スルコトヲ要ス云々トスヘ
シ(横村)之ヲ清算スノ文字ハ其委棄ヲ清算ストセサレハ競落
ヲ言消ス義ナラサルヤノ疑ヒアレハナリ可決ス

第五款 競賣及ヒ所有權徵收

第千二百九十條 第三所持者カ辨濟ヲ爲サス、委棄ヲ爲サス又競除
ヲ提出セサルトキ又ハ競除ノ目的ニテ爲シタル提供ノ受諾ヲ得サ
ルニ因リテ増價競賣ノ求ノアリタルトキハ民事訴訟法ニ規定シタ
ル方式ト公示トヲ以テ不動産ヲ競賣ニ付ス

(清岡)増價競賣ノ求ノアリタルトキハト云ヘルハ第三所持者
ヨリ求ノアルカ如キ感アルヘシ(南部)増價競賣ノ求ノアリテ
トアルニ付キ第三所持者ノ求ノタルニアラサルヤ知ルヘシ

民再調三ノ一三一

第千二百九十條ノ二 前讓渡人又ハ分割者カ第千二百七十八條ノ二
ノ明文ニ從ヒ其先取特權又ハ法律上ノ抵當權ヲ關テ其解除訴權ヲ
行ハント欲スル旨ヲ陳述シタルトキハ競賣前ニ其訴ノ判決ヲ求ム
ルコトヲ要ス但第三所持者ノ要求ニ因リ裁判所カ此事ニ付キ定メ
タル期間ヲ過クルコトヲ得ス

(箕作)其訴ノ判決ヲ求ムルコトヲ要スト云ヘルハ其訴ヲ爲ス
コトヲ要スト云フ義ナリ(元尾崎)其訴ト云ヘルハ如何(箕作)
解除訴權ヲ指スヘシ(清岡)前讓渡人トアル前ノ字ハ刪除スヘ
シ可決ス(栗塚)其訴ノ判決ヲ求ムルコトヲ要ストアルテ其訴
ヲ爲スコトヲ要ストシテモ妨ケナシ可決ス(清岡)但以下ハ刪
除シテハ如何(南部)然ルヘカラス

第千二百九十一條 總テノ場合ニ於テ解除ノ請求ナク又ハ其認許ナ
キトキハ第三所持者ハ競賣ノ際競買人ト爲ルコトヲ得

若シ第三所持者ノ利益ニ於テ競落チ宣告シタルトキハ其判決ハ原
證書確證ノ證書トシテ其原證書ノ登記ノ縁邊ニ之ヲ附記スルノミ
（元尾崎）認許ナキトキト云フハ如何（栗塚）請求スルモ其認
許ヲ得サルトキハト云フ義ナリ（清岡）裁判上ニ認許ト云フヘ
キ實例ヲ使用シタル例ナシ（元尾崎）其請求カ成立サルトキト
シテハ如何（横村）請求ヲ受理セサルノミナラス敗訴ニ歸着シ
タルトキチモ含ムナラン（栗塚）然リ（南部）別ニ妥當ノ文字
ヲ附記スヘシ若シ其文字アラサルトキハ原案ノ文字ニ決セラレ
タシ其義ニ決ス

第一千二百九十二條 第三所持者ニ非サル者ノ利益ニ於テ競落チ宣告
シタルトキハ其判決ハ所有權移轉ノ證書トシテ特ニ之ヲ登記シ且
前登記ノ縁邊ニ之ヲ附記ス

無異議

昭和十三年六月八日寫了司法省法律調査會藏書

日本學術振興會

